

級に認定します

試験場

年

組

氏名

問一 解答欄

楷書

行書

かな

問二 解答欄

問三 解答欄

問四 解答欄

問五 解答欄

箱	才
↓	↓
郡	斤
↓	↓
輪	一
↓	↓
起	糸
↓	↓

級に認定します

前回までの級

試験場

年

組

氏名

問一 解答欄

問二 解答欄

問三 解答欄

問四 解答欄

問五 解答欄

オ	う
<input type="text"/>	<input type="text"/>
モ	み
<input type="text"/>	<input type="text"/>
テ	ひ
<input type="text"/>	<input type="text"/>
ナ	ら
<input type="text"/>	<input type="text"/>
シ	き
<input type="text"/>	<input type="text"/>

合否印

合
否

初
段
(1)

試験場

年
組

氏名

問一
解答欄

楷書

行書

問二
解答欄

問三
解答欄

問四
解答欄

--	--	--	--	--	--	--	--	--

初 段 (口)

問五 解答用紙

試験場	年 組	氏名
-----	-----	----

合否印
合 否

一般部

二段・三段(イ)

受験段に○印
をして下さい

試験場
年組
氏名

問一
解答欄

楷書	行書	草書	隸書

問二
解答欄

--

問三
解答欄

(1) 九成宮醴泉銘	作品名
(2) 争坐位文稿	時代
(3) 十七帖	筆者

問四
解答欄

--	--	--	--	--	--	--

問五
解答欄

--

二・三(口)

問六 解答用紙

試験場

年 組

氏名

--

※各問の出典の記入は自由とする。

問一 次の文を、行書で調和よく書きなさい。(ふりがなは書かないこと) (形式は縦・横自由)

蛭	伊藤 静雄
立木の間にふはふはと	
ふたつ三つ出た蛭かな	
窓べにちかくよると見て	
差しのばす手の指の間を	
垂火逃げゆく檐のそら	
思ひ出に似たもどかしさ	

問二 次の漢詩の書き下し文を、原文のまま行書で調和よく書きなさい。(ふりがなは書かないこと) (形式は縦・横自由)

春望	杜甫
国破れて山河在り	
城春にして草木深し	
時に感ずれば花にも涙を溅ぎ	
別れを恨んでは鳥にも心を驚かす	
烽火 三月に連らなり	
家書 万金に抵る	
白頭 搔けば更に短かく	
渾べて簪に勝えざらんと欲す	

問三 次の短歌を、調和よく短冊の形式に散らし書きしなさい。漢字は仮名に変えてもよい。(連綿や変体仮名をいくつか使いましょう)

わたの原	こぎいでてみれば	久方のくもゑにまがふ	おきつ白波
------	----------	------------	-------

(藤原忠通の歌)

問四 次の字句を、筆ペンを使って、楷書と行書で書きなさい。

御 祝	寸 志	御 中 元
拜 啓	前 略	御 歳 暮
命 名	追 伸	御 霊 前

合否印
合
否

準師範・師範

どちらかに○印をして下さい

問一 解答欄

--

問二 解答欄

試験場
年組
氏名

--

一般部 準師範・師範 解答用紙

試験場	年 組	氏名
-----	-----	----

問三 解答欄

--

問四 解答欄

〈楷書〉

〈行書〉
